

若い団員の声を聞きました。

- ① ① 入った年齢は？
- ② ② 入って良かったことは？
- ③ ③ 消防団全般についてご自由に。をお聞きしました。



第1分団第1部 (月上)
本間 充さん

- ①25歳
- ②地域の消防団員と交流が出来た事。
- ③月瀉祭の準備があるので連合演習は5月くらいが良い。



第1分団第2部 (月下)
小島 達弘さん

- ①22歳
- ②いろんな年齢の人と知り合い人生の勉強になる。
- ③消防団が全体としてまとまっていると思う。



第1分団第3部 (大別当)
小湊 茂さん

- ①23歳
- ②今まで付き合いのなかった地域の人たちと知りあいにれたこと。
- ③消火栓の点検や火災予防運動の呼びかけなど日頃から村のために頑張っていると思う。



第2分団第1部 (西萱場)
山田 大輔さん

- ①21歳
- ②自分の中で何事にも責任感が持てる様になった。
- ③ポンプ操法競技がなくなればもっと団員が入って来るのではないだろうか。



第2分団第2部 (曲通)
和 平 裕 行 さん

- ①23歳
- ②特にないです。
- ③5月末から6月にかけて仕事等が忙しいので連合演習を5月中旬にしてもらいたいです。



自動車部
近藤 一実さん

- ①28歳
- ②幅広い世代の人達と知り合えること。
- ③なし。



第3分団第1部 (東長嶋)
山田 謙也さん

- ①23歳
- ②地元の今まで、付き合いの薄かった人々との交流の場を持つ事が出来たこと。
- ③村民の安全を第一に考え、入団したからには、責任を持って勤めたいと考えている。



第3分団第2部 (木滑)
高木 友和さん

- ①21歳
- ②あまり接することのない地域の方々との合う機会ができたこと。
- ③消防団ということで地域に貢献していると思います。活動は年に数回ですが、仕事をやりながらなので予想していたより大変です。



第3分団第3部 (釣寄・釣寄新)
曾山 卓さん

- ①22歳
- ②普段、話をする機会のない人というんな話ができること。
- ③なし。

月瀉村消防団のいま……

月瀉村消防団は、昭和22年に警防団から消防組織法の規定に基づき月瀉村消防団設置条例により消防団が組織されました。当時の定数は300人でした。

消防体制は1村だけで機材等を整備することは、経済面、人員面からも難しく昭和44年から広域消防方式(白根市、中之口村、味方村、小須戸町、月瀉村)になり、定数は159人になりました。

現在は、間嶋団長以下、本部、3分団制、団員130人、消防自動車ポンプ自動車1台、小型動力ポンプ付積載車8台を持つ消防力体制です。

消防団の主な目的は地域の生命と財産を守ることであり、地域社会に奉仕する団体です。地元住民が消防団に対する理解と協力心を深めることにより、「地域と団」が一体となり、住民に信頼され、地域に貢献することは地道な予防活動の一環です。

個人活動が中心になりつつあり、地域にも組織化団体がなくなっている昨今、消防団活動は少なからず地域の活性化につながっていくと考えられます。

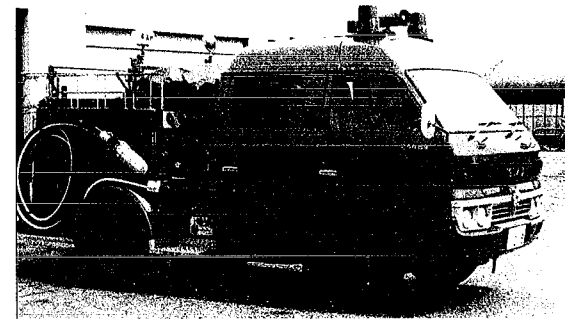
活動は、災害の場合は、火災・風水害・地震の際に出動します。災害の無い場合は、火災予防・警備警戒・教育訓練活動、機械器具等の点検等を行っています。

訓練は、ポンプ操法、規律訓練、機械器具の点検等消防団員としての基本的な訓練を行っており、万一災害発生時に対応できるよう備えております。

消防団のサラリーマン化が進むとともに、村外勤務者が増加する中、村内火災に対する初期消化対応能力の低下は否めませんが、常備消防がその役割を十分カバーしていると考えています。(日中不在率60%)

当村の消防団をとりまく環境は、年々複雑多様化し、「団員確保」・「定数」・「部の再編」・「日中火災の初期対応」・「自動車更新」等の様々な問題を抱えています。

近代化消防に対応すべき「人づくり」を行い、住民に伝えるよう努めていく必要があります。



自動車部の消防ポンプ自動車



各部に配置されている小型動力ポンプ付積載車



新入団員に水出しを訓練する曲通団員



火災予防運動期間中消火栓の点検を行う大別当団員